

⑤Int.Cl.
B 65 d

⑥日本分類
132 B 31
134 B 084.1

日 本 国 特 許 庁

⑪実用新案出願公告

昭47-40972

⑩実用新案公報

⑭公告 昭和47年(1972) 12月12日

(全2頁)

1

⑫異種液体の隔離密封容器

⑬実 願 昭45-29770
⑬出 願 昭45(1970) 3月27日
⑬考 案 者 佐藤俊策
茨木市下穂積1の1の2日東電気
工業株式会社内
同 寺山昭
同所
同 沼田誠一
同所
同 長町正俊
同所
同 滝川敏男
同所
同 柴井継世
同所
⑬出 願 人 日東電気工業株式会社
茨木市下穂積1の1の2

図面の簡単な説明

第1図は本考案の実例を示すもので異種液体を隔離した密封容器の斜視図、第2図は隔離部を構成する2個組ロールの配置側面図、第3図は第1図の隔離部の一例を示す要部拡大断面図である。

考案の詳細な説明

本考案は使用時に混合あるいは化学反応されるべき2種以上の液体を一時的に隔離して密封収容しておき、使用時に隔離を解いて異種液体を互に接触混合させると共に混合物の取出しを容易にした可撓性プラスチック袋からなる隔離容器に関する。

従来、異種液体を別個に収容しておき使用時にこれを混合させることは公知である。この方法では異種液体を夫々保存しておき使用時に適量を秤量混合する手間が必要であり、混合時にもれたり場合によつては液体が空気中の酸素、湿気等により変質する危険を併う欠点がある。また液体が高

2

粘度の場合には混合時に気泡が混入し、好ましくない結果を生ずる。特に互に化学反応する液体として例えばエポキシ樹脂、ウレタン樹脂、不飽和ポリエステル樹脂の如き常温もしくは熱硬化性樹脂とその硬化剤、硬化促進剤とを混合する場合には気泡の混入は外観を損うだけでなく電気特性、機械特性等を低下させる原因となる。

かかる欠点を補う異種液体の収納容器として可撓性袋体の内部に適度の外圧を加えた時に容易に破れる隔壁を設けた容器が提案されているが、これとても未だ十分に満足しうるものではない。すなわち、作製方法が複雑であると共に保存時に不用意な外圧が加わると隔壁が破断しその機能を全く喪失してしまうのである。

更に使用時に隔壁を破断して内容物を混合する際に破断片が障害となり均一な混合を妨げ、しかも混合物を取出し難い欠点を有している。

本考案は上記諸欠点を除去したもので、密封された可撓性プラスチック袋内に異種液体を一時的に隔離して収容する容器において、隔離すべき袋部分を2個組のゴムロール間に位置せしめ押圧隔離してなる異種液体の隔離容器を提供せんとするものである。

本考案の実例を図面について説明すると、第1図において1および2はポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ塩化ビニル等の可撓性プラスチックフィルムからなる連通した袋体であり、袋体を横ぎる長手方向の隔離部5において両者は隔離され互に異種液体を収容した状態で密封部3、4を形成している。なお上記袋体を使用する可撓性プラスチックフィルムとしては収容液体が透過もしくは浸透せず且つ収容液体を外部からもみほぐして均一に混合しうる程度の可撓性を有するものであれば各れでもよく、紙、布のプラスチックコート品もしくはプラスチック貼合せ品を使用することもできる。

而して、本考案において隔離部を形成するには第2図に示す如く、両端に円柱状突起片6、6'

3

を有する上部ゴムロール7および両端に円柱状突起片8, 8'を有する下部ゴムロール9を用意し上記2個組ロールの各突起片を2枚の支持板10, 10'で連結することにより構成する。第3図は隔離すべき袋部分を2個組ロール間に位置せしめ支持板10, 10' (10'は図示していない)で押圧隔離した側面図を示しており、支持板10は下部ゴムロール9の突起片8を貫通する孔11および上部ゴムロール7の突起片6に係合し逸脱することのない1個またはそれ以上の連通孔12を有しており、突起片8には支持板10が脱出しないようにピン13等で保持するようにする。図中1'および2'は隔離された袋体1および2内の互に異なる液体を示す。なお支持板10'は上記支持板10と同形状であつてもよく、突起片6'に係合する孔は数個の貫通孔とする等の変形も可能である。更に2個組ロールの表面に微細な切込み、微小突起等の粗面を形成しておけば隔離保存時にロールの移動を防止するのに有効でありまた上記隔離装置は袋体の1個所のみならず所望により2個以上に取付けてもよい。

本考案は上記のように構成されているので、弾性を有する2個組ゴムロール間に可撓性プラスチック袋の隔離部を位置せしめ、2枚の支持板でロ

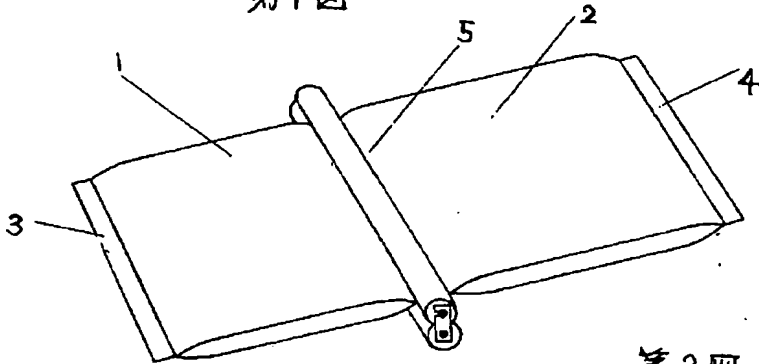
4

ール相互を押圧するように連結するだけで極めて簡単に袋体の隔離部を形成することができ、しかも使用時には下部ゴムロールの円柱状突起片を軸にして支持板を回転することにより上部ゴムロールの連結を解くだけで連通した一個の袋体となるため、異種液体を均一に混合でき気泡、湿気等の混入を未然に防ぐ効果を有する。更に本考案の隔離装置は隔離を解いて異種液体を均一に混合後、混合物を無駄なく完全に取出すのに極めて有効である。すなわち、従来の方法では袋体の一端を切断し混合内容物を手で押出しているが、袋体の内側特に四隅に内容物が残り無駄が多いのに比べ、本考案においては異種液体の混合後取出し口を設け、袋体の他端にロールが回転しうるように(支持板の貫通孔および連通孔を調節)2個組ロールを取付けロール間を通すことにより内容物を無駄なく円滑に取出すことができる等の優れた作用効果を奏する。

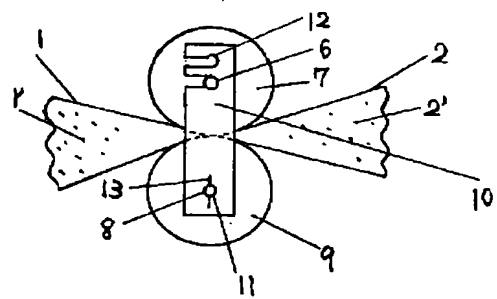
実用新案登録請求の範囲

20 密封された可撓性プラスチック袋内に異種液体を一時的に隔離して収容する容器において、隔離すべき袋部分を2個組のゴムロール間に位置せしめ押圧隔離してなる異種液体の隔離密封容器。

第1図



第3図



第2図

